OSS時代のソフトウェア開発

Software Development in Open Source Software Era

巻頭言

OSSを活用した新しいシステムソフトウェアの創出に向けて

Toward Creation of New System Software Utilizing OSS

尾高　敏則
ODAKA Toshinori

OSS（オープンソースソフトウェア）は，ソフトウェア開発において欠くことのできないものになっています。代表的なOSSであるLinux(注)は，1991年にLinus Torvalds氏がソースコードを公開したことを発端に成長し，現在は，業務システムにとどまらず，情報家電などの組込み機器に至るまで幅広く普及しています。

企業でも，ソフトウェア開発規模の飛躍的な増大に対応するため，市場で共通化できる部分にOSSを活用し，差異化したい部分にソフトウェア開発を集中できるというメリットがあります。

しかしOSSの価値は，そのような効率面でのメリットよりも，グローバル市場に向けた新しいシステムの創出を促進するという側面で大きくなっているように感じます。今後のシステムやソフトウェアは，必ずしも単一の企業で創出されるものばかりではなく，クラウドに代表されるIT（情報技術）基盤の上で，多くの企業やコミュニティが互いにアイデアを出し合って創出されるようになっていくものと思われます。OSSとOSSを通して培われるグローバルなコミュニケーションがそれらの創出に寄与すると考えるからです。

東芝は，業務システムにおけるOSSの活用に続いて，Linuxの情報家電分野への活用に向けて，CE Linux Forum（現 The Linux Foundation, CE Working Group）へ参画してコミュニティとの連携を深めながら，情報家電分野に適したLinuxの改良や拡張に関する技術開発を行ってきました。現在では，ほぼ全てのデジタルテレビとハードディスクレコーダにLinuxを搭載しています。更に，スマートコミュニティに代表される社会インフラ分野でも，組込み機器と業務システムが統合されたシステムに向けて，OSSコミュニティへ貢献しながら技術開発を推進しています。

この特集では，当社におけるOSSを活用したソフトウェア開発の最新技術を紹介いたします。OSSを活用したオープンなシステムの創出に向けたソフトウェア開発の取組みの一端をご理解いただければ幸いです。

（注）　Linuxは，Linus Torvalds氏の米国及びその他の国における登録商標。

ソフトウェア技術センター　所長　　Corporate Software Engineering Center